

# 分考通信

第十号

2018年1月号

文責  
中伸一



うっかり山椒

## 「通級による指導」の理解

中伸一

12月15日(木)に、有田・日高地方の生徒指導部の県外研修(「通級による指導」の理解)で、兵庫県立香風(こうふう)高等学校の取り組みを聴いてきました。そのことを生徒のみなさんに報告しました。内容は次の通りです。

香風高等学校は多部制(3部制)、単位制の普通科高校で生徒数は755名です。生徒の様子は小・中学校での不登校経験者が35%で、配慮を必要とする生徒(発達障害、心身の疾患、その他の疾患等)が200名です。香風高等学校の取り組みとしては、学校全体としての合理的配慮(例えば読み書き困難を示す生徒にパソコン、タブレットをノートとして使用等)を実践しています。特別支援学校の「自立活動」領域を取り入れた教育課程の編成授業名「社会技術基礎」を、ユニバーサルデザインの考え方も活かした授業が行われています。生徒たちから教科「社会技術基礎」に対し、「話し方がうまくならない」「一般常識を知りたい」「人に話しかけられるようになりたい」「ネットやSNSの使い方を知りたい」「ネガティブ思考を変えたい」「大人になるのに必要なことを身につけたい」と期待する声があげられています。

学校がホッとする場所であり、相談できる場所となっている。多様な生徒のニーズに応え、自分を何とかしたいと思う生徒の自立心を育て、生徒に寄り添っている学校のように思いました。案内して頂いた先生の言葉に「セルフアドボカシー」とありました。意味は「自分の権利を守る力」だそうです。学校見学をして、とても大事な言葉だと思い、本校生徒のみなさんに伝えましたが余り反応はよくありませんでした。



### 発達障害とは、脳機能の発達が関係する障害です。発達障害がある人は、コミュニケーションや対人関係をつくるのが苦手です。また、その行動や態度は「自分勝手」とか「変わった人」「困った人」と誤解され、敬遠されることも少なくありません。それが、親のしつけや教育の問題ではなく、脳機能の障害によるものだど理解すれば、周囲の人の接し方も変わってくるのではないのでしょうか。(政府広報オンラインより)

合理的配慮とは、障害者から何らかの助けを求める意思の表明があつた場合、過度な負担になり過ぎない範囲で、社会的障壁を取り除くために必要な便宜のことである。(平成28年4月1日に施行された障害差別解消法より)

ユニバーサルデザインとは、文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計(デザイン)である。(ウィキペディア フリー百科事典より)

ユニバーサルデザインとは、文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計(デザイン)である。(ウィキペディア フリー百科事典より)

### 租税教室(税のしくみ社会の関わり)

社会科担当

講演は、湯浅税務署の方を講師に迎え、税金の種類・分類・公平性 等々のお話でした。

「もし税金徴収がされなかったら、私たちの暮らしがどうなる?」と云うDVDも観ました。昨年も観たような気がするですが、何回みても「ぞっとする」ものです。

消費税8%の内、1.7%が県収入になることを知っていましたか? 「公共サービス」や「公共施設」の身近な話しもありました。例えば公立中学校一人の生徒に一年間に掛かる費用は100万円だそうです。少子高齢化の問題では勤労者世代の負担が徐々に大きくなることを数字によって示されていました。

毎年講演を聞いて思うことですが、いろいろな問題を解決するにはどうすればいいか、生徒一人一人が考える機会となれば良いなと思いました。

### 学校前の坂道の凍結が気になる

生活指導部担当

三学期早々雪が降り、学校前の坂道の凍結が大変気になりました。凍結剤を6俵まき効果絶大でした。その後寒さも緩んで安心していました。1月の中頃より寒波が厳しくなり、22日の月曜日に、再度坂道が凍結しないかと心配でいつもより早く登校し、坂道を2往復歩き点検をしました。この1週間は2往復歩き続けることになりました。自分の健康も兼ねて、心配される時は歩き続けたいと思います。その週末には役場の方々が凍結剤をまいてくれ、消防自動車を通り、坂の上にある学校の安全を見守ってくれています。安心して生活できていることを実感します。

今年は寒さも厳しく、単車通学生のちよつとした事故もあり、単車点検を忘れずに行いたいです。

